

行政評価制度説明会要点記録（午後部）

日 時	平成 19 年 8 月 28 日(火) 午後 2 時 ~ 3 時 40 分
場 所	西東京市スポーツセンター会議室
参加者	7 人
天 気	晴れ

基幹型保育園の整備方針

基幹型保育園は今後どのように整備がされていくのか。

基幹型保育園は、従来の公設認可保育所に地域子育て支援センター機能を付加したもので、人口 10 万人に対して都の補助が 1 園つくことから、西東京市の場合 2 施設が補助の対象となる。市では、市域を 5 つのブロックに分け、各ブロックに地域の子育て支援の拠点となる施設を整備する計画を持っている。行政評価結果では改善見直しとなっているが、5 つの基幹型保育園に地域子育て支援センター機能を付加し整備していくという方針に変わりはない。しかし、3 施設については、市の一般財源で施設改修や人的配置を行うことから、定年を迎えた経験豊富で有能な保育士の活用なども視野に入れ、人件費を浮かせつつ現場が機能するような工夫を検討していきたい。

市民説明会について

配布資料、説明等が一般の市民にとってわかりづらい。

行政評価に関する用語や制度についての説明は、確かに全ての市民の方にわかりやすいかといわれれば、十分とはいえない。

今後は、ホームページや市報等についても、市民がわかりやすい説明となるよう、努力したい。

市民参加について

市は、決定する前に市民の意見を聞くようにしてほしい。

西東京市では、市民の皆さんが行政に参加するしくみを定めた市民参加条例を平成 14 年度に制定しているが、市民参加の手続きについて、各部署において若干の偏りがあると感じる部分がある。そこで運用面で市民の皆さんが参加しやすいように庁内向けのマニュアルを作成している段階である。

市民に皆さんに対する事前説明会の最近の事例としては、谷戸・中原出張所の統合がある。両出張所は平成 21 年度に統合・廃止し、新たに駅前に出張所を整備する予定である。この件について、7 月に 2 度説明会を開催した。また、保育園では、保護者の連絡協議会があり、定期的に日頃の問題、課題を話し合い、あるいは要望などについて定期的に協議する場を設けている。各部門で温度差はあるにしても、そのようなしくみがあることをご理解いただきたい。

行政評価の取り組みについて

評価結果は改善見直しが多く、例えば高齢者に関する事業など、高齢者の実態や市民の意見を良く聞き、把握した上で評価したのか、行政評価制度の流れを説明してほしい。

評価対象事業は市の裁量の余地のある約 450 事業を抽出し、3 年間で一巡するように評価を行っていく予定で、平成 19 年度は 115 事業を評価した。現段階では、庁内の評価結果を出したところで、今後パブリックコメントにより市民の皆さんの意見等を把握する。それと庁内結果をあわせて公募市民や学識経験者など外部の委員により構成された行政改革推進委員会に諮り、客観的かつ第三者的な意見を伺う。それを受けて行革に関する庁内の最高意志決定機関である行革本部に再度諮り次年度予算に反映していく。なお、個々の事業評価シートについては、115 事業全てを情報公開コーナーやホームページに掲載する。西東京市の行政評価では、一次評価の段階から事業所管課が評価し、さらに二次評価の行革本部評価では、事業を所管する部長が出席する会議の議論を経て最終的に行革本部評価コメントになっていることをご理解いただきたい。

東大農場の移転中止について

東大農場の移転中止が決定されたが、東大農場を横断する都市計画道路に危惧している。移転中止の決定により、道路計画はどうなるのか。

東大農場の説明会ではないため、知っている範囲で回答するが、東京都が定める三次化路線に位置付け事業決定されており、道路整備計画が中止されることはないと考えている。また、北原交差点の渋滞緩和や東村山方面に抜ける重要な路線であり、計画通り進むものと考えている。

行政評価を活用した行革の必要性(参加者意見)

行政評価の取り組みを評価する。以前審議会の委員として行政との関わりをもったが、そこでは、30 前にできた制度を現状に照らし時代にあっているかどうかの検討もせず、ただ惰性でやっているという印象を受けた。ヒト、モノ、カネ、時間というのは限度がある。既存の制度で不要なものは廃止し、新しい制度を入れていく。評価しただけでは意味がなく、実施しなければならない。この PDCA サイクルは素晴らしいと思う。また、市民もある程度の痛みを伴うべきだと私は感じている。行政評価制度を継続し、行政はどんどんスリムになってほしい。

行政評価制度説明会要点記録（夜間の部）

日 時	平成 19 年 8 月 28 日(火) 午後 7 時 ~ 8 時 35 分
場 所	イングビル 3 階 第 3 ・ 4 会議室
参 加 者	3 人
天 気	曇りのち雨

今後の流れ

行政評価は、重要であると考えている。これからパブリックコメントの期間に入るとのことだが、今後の流れは？

本日から 1 ヶ月間パブリックコメントを実施し、その意見を付して第三者機関である行政改革推進委員会へ諮ります。その提言を受け、市長を本部長とする行政改革推進本部で最終的な決定し、予算や施策へ反映させていくという流れになります。

出席者数について

出席者が 3 名しかいないことについて、どのように考えているか。

告知の方法など市民の方に伝わりにくかったのではないかと考えており、反省材料といたします。また、ご都合により出席できなかったという方々もいると思いますので、出前講座でも対応します。

財政状況について

行政評価を実施し、限られた財源を有効に使うとのことであるが、財政状況はどうなっているのか

財政状況を示す指標の一つとして、経常収支比率というものがあります。これは、義務的経費など経常的な経費と経費総額の比率を表したものです。経常的な経費が高いと 80%程度が適当だと言われておりますが、西東京市は 90%程度となっており、特別会計を含めると実質的な経常収支比率は 100%を超えているという現状です。ニーズが多様化していくなかで、財源を有効に分配して使うことが必要な状況にあります。

昼間の説明会の状況

昼間にも説明会を実施しているが、どのような質問・意見があったのか？

昼間の説明会では、主に以下の質問・意見がありました。

- 1 基幹型保育園の都補助対象数について...人口で補助の範囲が決定する(2園)。
- 2 言葉がわかりづらい
- 3 評価結果が出てからの市民説明会では遅いのではないか。
- 4 高齢者に対する事業の「改善・見直し」は、サービスの低下につながらないようにする必要はある。
- 5 ゴミ収集の有料化や出張所の統廃合について、決定する前に説明会等を実施してほしい。
- 6 行政評価制度を通して、痛みを伴ってでも行政の再構築を図る必要がある。
- 7 東大農場について など

周知方法(市報・ホームページ)について

昨年度も参加者が少なかったと記憶している。市報で大きく載っていたが、「行政評価」という言葉は市民には馴染みがなく、内容がイメージできない。用語についても、わかりやすくしてほしい。

ご指摘のとおり、いわゆる「行政用語」と言われている文言は専門的で伝わりにくく、使用しないよう努めているところですが、さらに徹底するようにします。

ホームページで個別事業シートを閲覧したが、トップページから検索しづらかった。また、シートは各部毎になっているようだが、その点についても注意書きするなど、わかるようにしてほしい。

115事業について一括して掲載してしまうと、その中から見たい事業を探すことが難しくなってしまうため、各部ごとにまとめました。本日からパブリックコメントを実施しているで、早急にホームページの構成等を改善します。

男女平等推進事業(情報誌「エガール」・フォーラム事業)について

評価が「抜本の見直し」となっているが、普及・啓発など広報活動は今後も必要であり、「もう十分に役割を果たした」という性格のものではない。今後、予算「減額」の方向性となつてはならないと思う。

事業としての必要性がなくなったということではなく、市としては、相談事業の方に重点を置いて展開していく方向にあるという評価になっています。また、事業の実施形態や内容等を見直しより効率的・効果的な事業となるよう、「抜本の見直し」となっています。